

日本聖公会

大阪教区報



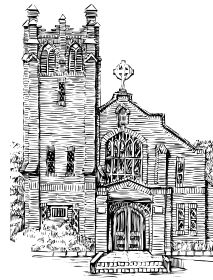
西宮聖ペテロ教会



東豊中聖ミカエル教会



聖ルカ教会



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局

〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
総務局長 司祭 内田 望

+++++ 第509号 2023年4月20日発行 +++++

彼女は振り向いて

主教 アンデレ 磯 晴久

イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。ヨハネによる福音書20:16

イースターおめでとございます。

2023年、私たち大阪教区は教区成立100周年を迎えます。6月11日(日)午前10時30分プール学院中学校・高等学校メアリーズ・ホールにて100周年記念感謝の教区礼拝を開催致します。この日のことを憶え、万障繰り合わせて、ご参集ください。当日顔と顔を合わせて感謝と賛美をささげましょう。

教区宣教局も100周年記念実行委員も、2023年の年に、新しい宣教の一步を歩みだすことができたかと準備しています。「前に向かって」「前向きに!」、大切なことです。現実の世界を見ておらず、「逆境の時代」ではなく、「逆境の時代」に私たちは生きていくと感じます。そのような時代に、ピンチをチャンスに

するくらいの前向きな姿勢が大切なことは言うまでもありません。しかし、復活の主は、前からではなく、背後からマリアに声をかけられました。主イエスは、いろいろな方向から私たちに声をかけて来られます。



マリアは、墓の外に立って泣いていました。主イエスの遺体が納められた墓の入り口を塞いでいるはずの石が、取り除けられていました。一体何が起こったのでしょうか。墓の中に入ったペトロともう一人の弟子は、主イエスの遺体を覆っていた亜麻布だけが残っているとマリアに報告したのでしよう。

主イエスの遺体が無くなっている。マリアは主イエス亡き後、主イエスのことを憶びながら、主イエスとの思い出を胸に憶え、お墓を守って生

きて行くかと思ったのです。ところが遺体もない。マリアはただただ泣いていました。さて、今日の福音書を読みますと、マリアは2回後ろを振り向きませんでした。1回目は、「こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。」ところが2回目は、「イエスが、『マリア』と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で『ラボニ』と言った。『先生』という意味である。」マリアは同じように後ろを振り向いたのですが、どうしてこんな違いが起こったのでしょうか。それは、2回目は主イエスの方がマリアの名を呼ばれ、お声をかけられて、マリアを振り向かせられたからではないのでしょうか。

マリアは主イエスの遺体を、必死に探そうとしていました。しかし、復活の主はもうマリアの後ろにおられたのです。マリアは気づきませんでした。主イエスは、後ろからマリアを支えておられたのです。既に、マリアは主イエスの大きな愛に包まれていたのです。なぜなら、復活の命は愛だからです。マリアが「ラボニ」と言ったのは、主イエスの復

活の命(主イエスの大きな愛)に、マリアは深い悲しみを抱えたままで、包まれていたことに気づいたからです。主イエスが後ろから声をかけられたのは、マリアが自分の力で生きているのではなく、今日からは主イエスの復活の命に包まれて生かされる者になったことに、気づかせるためだったのです。

マリアは、主イエスの死を憶えて生きていこうとしました。この時から、主イエスの死(十字架)だけではなく、復活の命に与ったことを憶え続けて生きることになりました。その信仰を私たちは受け取り、聖餐式において主イエスの十字架と復活を憶えて、聖餐式を守っています。

阪神淡路大震災で、長男M君を失ったCさんは、語り部となって息子さんのことを語り続けておられます。Cさんは言います、「M君のことを憶え続けることは、生きていく力であり、いやしの力となります。」と。

主イエスの導きを求めて、主イエスの十字架と復活を憶え続け、後ろも振り返りつつ、前に向かって歩みましょう。(大阪教区主教)

教区会・語り場報告

司祭 古澤 秀利

第130回（臨時）教区会結果、2022年度決算案と2023年度予算案を可決し、定刻通り閉会した。詳細は、後日教区報に記載する予定です。

3月19日に開催された第130回（臨時）教区会後に、信徒と教役者が大阪教区の歩みを分かち合うプログラムとして「語り場」が開催されました。

教区会に出席した信徒代表31人と教役者議員13人、そして陪席した信徒・教役者が8グループに分かれて分かち合いの時間を過ごしました。分かち合う事柄の目安として、教区会出席者の皆さんへ事前にお知らせした内容は以下の通りです。

- ① 信仰の先達たちの働きを土台とした
- ② 歩みの中で私たちはどのような実りを受けてきたか、
- ③ 今後私たちはどのような教会（教区）を目指すのか、

③その為に何が必要か。

これらに加えて、教区成立100周年準備委員会から大阪教区ビジョン案として提案されている「神中心の信仰共同体への回復」、そして教区成立100周年のテーマとして考えられている「Re-Osaka」。

ビジョンとは将来のありたい姿・未来像を言葉にしたものであり、「大阪教区ビジョン」という場合には教区の中長期的な未来像を指します。

準備委員会ビジョンチームでは、私たちが神中心の共同体であるとき、教会は全ての人（信仰の有無を問わず）の居場所となりえ、また地域への働きがなされる。いま私たちの教会は神中心であり続けているだろうか、との問いかけを含めて先のビジョンが案として作成されました。このビジョン案は今語り場を含め、多方面からの意見を参考に作成していきます。

テーマ：「Re-Osaka」について。

このテーマは今回の教区成立100周年記念礼拝にあたり、私たちの大阪教区を振り返り、大切にしてきたものを心に留め、次の一歩を踏み出そうという意味が込められています。また、「Re」から思い浮かぶことを出し合いビジョン案につながっていくことを狙いとしています。

紙幅の都合で全てをご紹介できませんが、いくつかのグループで分かち合われたことをご紹介します。また、早い段階で8グループの分かち合い記録をまとめて各教会へお届けしますので、その際はぜひご覧ください。そして、皆さんの教会でもぜひ語り場を開催してみてください。

- ・ ビジョンを基にどのように進むか方向性を決める
- ・ 100年の間に何を受け取ってきたか、私たちの強みは何か
- ・ 「回復」には失われているというイメージがある、優しい言葉の方がよいのではない

・ ビジョン案は提案である、これから落とし込んでいく

神中心とは何か、回復とは何の回復か、大阪教区の教会はこのままでは閉じていってしまう、具体的な対策が必要、教会はアメリカの宣教師が来て大きくなった、教会は外に対する宣教・伝道が大切、宣教師の志に学ぶ必要がある

・ 宣教師の熱量に学び、新しい一歩を

・ 教会だけでなく日本全体が少子高齢化している

・ 90周年の宣教協議会の記録を見るといろいろな取組をしている

・ 聖婚式がきっかけになった事例があった

・ 地域だけではなく教会内の取組が大事

・ 韓国で開拓伝道をしていたときに、他の地域からその地域に引越した信徒の情報をもらって訪ねていく取組を行っていた、効果は30%

・ 新しい人への声かけ、プッシュをしている

・ 新しい人は教会のグループに入るのが難しい、排斥されているように感じられる

・ 初めての人を迎えるシステムはあるが、2回目以降が難しい

・ 韓国では教会委員で新しい人の対応をする人を決め、洗礼を受けるまでフォローする仕組みがある

・ どこまでフォローするか匙加減が難しい

・ 誘ってみないと、待っているかどうかわからない、遠慮があるけど誘わないよりは誘った方がよい

・ 世界的に信徒が減っている教会が多いが増えているところもある、信徒が信徒を教えるプログラムでうまくいっているものがあれば教区が紹介してほしい

解説・宣教協働区・伝道教区とは？

問題点と課題

⑦

2020年の法規改正で導入された宣教協働区と伝道教区制は、日本聖公会のこれまでのあり方を大きく変える画期的なものです。新しい制度であるため、試行錯誤は避けられないでしょう。予想される問題点としては、

(1) 伝道教区への移行は、教区会で過半数の賛成が得られれば承認されますが、最終的に合併・新教区を設立する際には、宗教法に照らして再度、各教区の4分の3の決議が必要になります。

(2) 宣教協働区内の協働委員会には大きな役割もつていますが、権限等については規定されていません。各教区の常置委員会との関係性は、今後の課題です。

(3) 3つの宣教協働区は、必ずしもそのまま合併して新しい教区になると定められているわけではありません。区切りは従来の教区域をそのまま使っているため、現代の実情に合っていない場合があります。例えば、中部教区に属

する新潟県は、東北とのつながりの方が大きいと思われる。

(4) 合意形成のための情報が伝達で、広報のあり方が大きなポイントになるでしょう。伝道教区制に対する北海道、東北教区の判断理由の一つに「不十分な説明」が挙げられていました。一歩先んじている北関東教区においても、時間的制約がある中で信徒への周知は大きな課題でした。

(5) 新制度の主眼は日本聖公会全体の宣教の活性化にあります。新しい教区の目標や宣教ビジョンを、私たちが主体的にどう捉えていくかが課題となります。

現在、大阪教区は中日本宣教協働区の一員として、京都、中部、横浜の各教区と共に協働委員会での関係性を深めています。特に、大阪は2025年3月に磯晴久^{いそはるひさ}主教が定年退職となれることから、これを見越して伝道教区に手を挙げるかどうかは選択肢の一

つになると考えられます。このあたりの具体的な工程案や課題については、次号以降で説明いたします。

宣教協働区と伝道教区制に

ついて、ご質問やご意見がありましたら、どうぞご遠慮なく常置委員会までお寄せください。
(常置委員会)

教区成立100周年記念事業準備委員会からのお知らせ

*記念聖句 「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」 ネヘミヤ記8-10f

1. 記念礼拝

日時 2023年6月11日(日) 10時30分～
場所 プール学院メアリーズホール

- *プロセッションに先立って各教会のバナーをメアリーズホールの壇上にささげます。各教会でバナーとバナースタンドのご用意をお願いいたします。
- *会場のメアリーズホールは「土足厳禁」となっております。各自で上履き(スリッパ)と靴袋をご用意ください。
- *キッズプログラム(仮称) 9時45分～10時10分(そのまま礼拝のプロセッションへ参加)
- *教区聖歌隊による奉唱があります。
- *プール学院のカフェテリアにて昼食(麺類、カレー、パンなど軽食)のご用意がございます。
- *台湾聖公会の訪問団をお迎えします。
- *奉献先: NPOメタノイア(在日韓国朝鮮人の子供たちのための支援事業)
トルコ・シリア震災支援のため
100周年事業のため

2. 記念コンサート(記念礼拝に続いて行われます)

日時 2023年6月11日(日) 13時30分開場 14時開演
場所 プール学院メアリーズホール
出演 「大韓聖公会ソウル教区男声合唱団」「大阪教区聖歌隊」他

3. 記念連続セミナー 3回予定

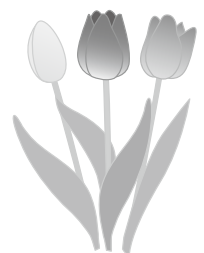
8頁広告を参照

4. 教区成立100周年記念誌を発行します。

*記念礼拝までに完成するよう、作業を進めています。

5. 記念品

*100周年の記念に素敵な記念品を準備しています。



公 示

下記のとおり、人事異動を発令します。

3月14日

- 司祭 ジョージ 林 正樹
3月31日付 大阪聖ヨハネ教会嘱託の任を解く。
- 主教 アンデレ 磯 晴久
3月31日付 大阪聖ヨハネ教会管理牧師の任を解く。
- 司祭 ステパノ 柳 時京
4月1日付 大阪聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。
- 執事 ヒューム ユーワン
4月1日付 桃山学院教育大にアシスタント・チャプレンとして出向を命じる。勤務は週3日、任期は1年とする。

3月15日

- 主教 サムエル 大西 修(退)
中部教区からの要請を受け、中部教区内各教会において主日礼拝等への協力を許可する。ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。
- 司祭 ペテロ 岩城 聰(退)
司祭ジョイ千松清美のもと東豊中聖ミカエル教会嘱託、司祭テモテ内田望のもと堺聖テモテ教会嘱託、司祭ヨシュア原田光雄のもと聖ルカ教会嘱託を委嘱する。ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。
- 司祭 ヨハネ 木村 幸夫(退)
主教アンデレ磯晴久のもと尼崎聖ステパノ教会嘱託を委嘱する。ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。
- 司祭 ペテロ 齊藤 壹(退)
主教アンデレ磯晴久のもと大阪聖三一教会(定住)嘱託、司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会嘱託、並びに博愛社、聖バルナバ病院、こひつじ乳児保育園チャプレンを委嘱する。ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。
- 司祭 ウィリアムス 竹内 信義(退)
司祭ジョイ千松清美のもと東豊中聖ミカエル教会嘱託を委嘱する。ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。

- 司祭 ペテロ 竹林 徑一(退)
司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会嘱託、司祭柳時京のもと川口基督教会嘱託、司祭韓相敦のもと高槻聖マリヤ教会嘱託を委嘱する。ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。
- 司祭 ダニエル 山野上 素充(退)
司祭柳時京のもと大阪聖ヨハネ教会嘱託、主教アンデレ磯晴久のもと尼崎聖ステパノ教会嘱託を委嘱する。ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。
- 司祭 施洗者ヨハネ 山本 眞(退)
主教アンデレ磯晴久のもと富田林聖アグネス教会嘱託、司祭テモテ内田望のもと堺聖テモテ教会嘱託を委嘱する。ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。
- 司祭 テモテ 宮嶋 眞(退)
司祭ヨシュア原田光雄のもと聖ルカ教会嘱託、聖ルカ教会嘱託を委嘱する。桃山学院嘱託チャプレンを委嘱する。ただし、日本聖公会法規53条2項に基づき、任期は1年とする。
- 司祭 アモス 金 頭昇(大韓聖公会ソウル教区より出向)
司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会協力牧師に任ずる。
司祭フランチェスコ成岡宏晃のもと大阪城南キリスト教会協力牧師に任ずる。
司祭柳時京のもと大阪聖ヨハネ教会協力牧師に任ずる。
- 司祭 ペテロ 金山 将司
主教アンデレ磯晴久のもと富田林聖アグネス教会協力牧師に任ずる。
- 司祭 フランチェスコ 成岡宏晃
司祭ヨハネ古澤秀利のもと大阪聖愛教会、並びに聖ガブリエル教会協力牧師に任ずる。
- 司祭 ヨハネ 古澤秀利
司祭フランチェスコ成岡宏晃のもと大阪城南キリスト教会協力牧師に任ずる。

生涯学習委員会主催 プネウマの集い

去る2月26日(日)と3月26日(日)の二回、大阪教区生涯学習委員会主催のプネウマの集いが開催されました。2月は大阪聖三一教会、3月は聖贖主教会で実施され、グループに分かれることが出来る程、多くの方々がご参加くださいました。

昨年「老い」というテーマを設定し、大柴讓治牧師をお招きしてご講演と分かち合いをしました。今年のテーマは、「ゆるし」です。元カンタベリー大主教、ローワン・ウイリアムズの著書『キリスト者として生きる』をテキストとし、ウイリアムズ主教の語られる「洗礼」「聖書」「聖餐」「祈り」という四つのテーマのうち、「洗礼」について分かち合い、洗礼から「ゆるし」について思いを深める時間を過ごしました。

2月26日に開催された大阪聖三一教会での集いでは、生涯学習委員会が、このテキストを読み込み、自身の中に得たものをまず会場の皆さんと分かち合い、その後、六つの小グループに分かれて洗礼、神様がどのような形で体験し

たのか、あるいは想像したかなどを分かち合いました。その分かち合いの結果は、互いに発表するわけではありませんが、各々の心の中で「ゆるし」とは何か、神様が貧しさや、苦悩、そういった混沌の淵に立ち、ともに分かち合うためにそこにいるということは何のためかなど、いろいろと考える機会を得ることができました。また私たちが抱える混沌とは、なんであるかという話にも話がありました。

3月26日に開催された聖贖主教会での集いでは、同様に洗礼をテーマにしてこのことを分かち合ったのですが、千松司祭から、このテキストの箇所に関する説明をいただき、このことをより深く理解しました。最後は、『わたしの聖書』の画集に掲載された、ジーガ・ケータさん(ドイツ)の、一枚の絵より貧しさ、病、囚われ、分かち合いの中にキ

リストの姿があるという解説がありました。自分が何を問われているのか、洗礼を通じて私たちがどこに立つのか、受け取る手か、分け与える手か、癒す手か、迎える手か、などを考えました。そして「神様とつながっていると感じたことはありますか」「ゆるしとは、あなたにとってどんなことでしょうか」という問いかけを小グループに分かれて分かち合いました。1時間程度の時間でしたが、各グループ話すことが尽きず、あっという間にプログラム終了の時間を迎えてしまいました。その後、グループの中でお互いの今抱えていることを分かち合い、各人隣人のために祈りありました。最後に聖歌48番「重荷背負う人に」を歌い、互いの祈りに導かれつつ解散となりました。

今回はウイリアムズ主教の著書より「聖書」から、「ゆるし」について分かち合います。参加希望者の方は、予約なしで、どなたでも自由に参加できます。次回の会場など詳細が決定いたしましたらお知らせいたします。お近くの教会で開催される際はぜひご参加ください。

生涯学習委員

大阪教区成立100周年記念

連合男子会主催 第137回祈りと証しの会

「あなたの泣く声を目の涙を抑えなさい」

ダビデ 宇野豊

2023年3月17日(金)
大阪聖パウロ教会にてヴェロニカ薦田久美子神学生が証ししてくださいました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により3年ぶりの開催でした。当日は約40名の方が来られ、その中で教役者の方が7名もおられました。

最初にウイリアムズ神学館での1年目の生活について、学びの現状と寮生活での人間関係での苦悩を正直に話されました。証し題の「あなたの泣く声を目の涙を抑えなさい」の言葉は、寮生活でのつらい時期に聖書でふれた箇所「自分の状況と重なり思わず涙をこぼされたそうです。」

次に、今の大阪教区の現状に思うこと、教役者としての牧会について、将来に向けての思いを語られ、今の教役者の方々には多忙すぎて疲弊しておられるのではないかと心配で、そのことで「ていねいな

「教会」を行うことが困難になっていくのではないかと、教役者と信徒がしっかりと団結し、自己中心的な考えと無関心を捨て、真剣に話し合い行動に移すことが必要である。健康で楽しく幸せだと思える信仰生活を送るための教会の統廃合も避けて通れないこと。ACC発行の本を読み、将来の教会において一番大切なことはプログラムではなく、人材育成だと感じたこと。教役者だけでなく信徒が信徒を有償で教育するための信徒リーダーの育成の必要性。将来の牧会については弱者に関する問題(ホームレス、性差別、難民問題、子供や高齢者への虐待など)弱くなっている人たちに敏感になり、温かく開かれた教会づくりが出来ればいいなあと語られました。薦田神学生の貴重な証しに感謝、そして主に感謝。

(聖贖主教会信徒)



ぶどうの枝だより⑦
タイトル「宣教協議会」

「清里への道」

今年の11月10日(金)〜13日(月)に山梨県清里にある清泉寮で開催される「日本聖公会宣教協議会」には各教区から教区主教、宣教担当を含めて8人、そして日本聖公会総会で定められた各委員会などの諸部門の代表、そして実行委員が集まる予定です。そして、協議会のプログラムの多くはオンライン配信を予定しており、実際に清里に集まるメンバーだけではなく日本聖公会につながる皆さんと一緒に時間を共有し、今後の日本聖公会の歩みについて思い



最新情報
ブログページ

を深め、共に歩み出していきたいと願っています。

各教区からの参加者、各委員会などの諸部門からの参加者が決まりつつありますが、参加者を対象とした「宣教協議会参加者オリエンテーション」を4月23日(日)と4月27日(木)の2回に分けてオンラインで行う予定です。今年の秋に清里に集まるまでまだ半年以上ありますが、すでに宣教協議会は始まっています。参加される方ができる限り情報を共有し、清里での宣教協議会までそれぞれの教区や諸部門で準備をして頂き、気持ちを醸成しながら「清里への道」を歩みながら準備をしていきたいと思っています。

参加される方の中には、まだ参加されない方も「宣教協議会って何を協議するのだからか」「清里に集まって何をやるの?」という思いを抱か

れている方もいらっしゃると思います。

オリエンテーションではその疑問について丁寧に分かち合う予定です。前回のぶどうの枝だより⑥で実行委員長の磯主教様が「聖公会は神の国に向かつて歩む旅人であり、正に私たちは今、希望を持って神の国へ歩む旅人としてこの宣教協議会を目指しています。その旅はこれからのための旅です。」と仰っておられます。宣教とは、神様が主体となつてなされる神の国の完成を目指す絶え間ない働きであり、私たちはその働きに招かれていきます。そして、その招きに応じて神の国を目指するしはこの世界の中にあります。それに気づき、発見することによって私たちの心が開かれ、育てられていくことを願って協議会が行われます。

日本聖公会の今後の歩みを考えるすべてのプロセスは神の国を目指す旅であり、祝福されていることを皆さんと分かち合いたいと思います。協議会が私たちに託して希望となり、神様からの祝福を感じられる機会となり、私たち一

人一人が元気になりたいですね。そしてその「元気」を一人でも多くの方々と分かち合っていきたいと思っています。旅には喜びもたくさんありますが、苦難もたくさんあります。その苦難を乗り越えて旅を続けていくためには希望が必要です。宣教協議会の主題聖句は、「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは

何もできないからである。」(ヨハネ15・5)です。神の国を目指す旅は、イエス様を離れては続けられません。どうぞ、私たちがイエス様から離れずに旅を続けていくことが出来ますようにお祈りします。「清里への道」が祝福されますように。



磯主教
メッセージ QR



大阪教区婦人会 昇天日礼拝

日時 — 5月18日(木)午前10時30分から

場所 — 大阪聖愛教会

説教者 — ヤコブ松平まつだいら いさお 功司祭

午後から第99回婦人会総会があります。



春の黙想会

ユニケ 山本 久美

3月21日(火・祝)、大阪

聖愛教会にて山野上素充司祭を講師にお迎えし、信徒のための黙想会が開かれました。

山野上司祭の82年の人生を振り返りながら、テーマ「神様の声を聴きましょう」などについて講話をお聴きしました。また講話の途中と終わりに各自で黙想の時を持ちました。

「神様の声を聴く」とは、常にそのことを思い廻らすこと、そうでなければ、声がしてもただ通り過ぎてしまおう、そして「信仰生活を続ける」とは、神様のみ声を聴き続けることだと話されました。また、「自分が一生懸命働いた」と考えるとき、それは自分ではなく、神様がそのように自分を用いてくださり、働きが与えられる、つまり神様は人を用いて働かれるということ、山野上司祭の経験を交えてもわかりやすくお話しくださいました。

山野上司祭が聖職者の道に進むことを決められたのは60



歳を過ぎてからだそうで、60歳からでも教会内外での働きのために学び、準備することは決して遅くないとお話の準備をと内心思っていました。また「信仰を受け継がれてこそ、自分の信仰生活が全うできる。私の人生の最終章は三人の娘たちにゆだねることになる。」というお言葉は、一週間前に父を神様の御許に送り出したばかりの私の心に染みるものでした。

当日の参加者は21名でした。会の終わりの夕の礼拝での信施金(20,700円)は守口ぶどうのいへの働きのためにお献げしました。

(大阪聖愛教会信徒)

『杖ひとつ』

「じれからのビジョンリーダーマニフエツト」

聖ガブリエル教会

ニコラス

丹田

則史

大阪教区においても聖ガブリエル教会は、『在日韓国・朝鮮人』の方々を由来とする、少し特異性を持つ教会として知られているところです。

今までは、創設者・張本榮司祭のお子さん六人姉妹が中心的な役割を担っておられましたが、長女の聖子さんをはじめ皆様方は高齢のため教会に日曜日、足を運ばれることが困難となり、主日礼拝は僕ら数人の信徒達で守ることが多くなりました。

僕本人も当教会にて30年前に洗礼・堅信を受けたガブリエル教会に連なる日本人であります。数年にわたって、長女である張聖子さんの訪問介護者として御奉仕させていただきましたが、現在は、聖子さんも施設に入所なさっていて、コロナ禍において面会もままならず、気になるもののお逢い出来ないという、歯がゆい感じが否めません。(近くの介護施設のため、一層感

じます。)

そしてここ数年の間に教会の草創期から大きな担い手だった、次女・聖恵さんのご主人である大川千萬さんや三女・聖悟さんのご主人の上原武一さんが逝去され、教会の根幹が揺らいできた感も否めないような一大転機となりました。そのため月ごとの教会委員会の開催も微妙になつて、委員定数を削減して対応にあたるといった策を講じた次第です。

これからの教会運営を考える上で、新たに大韓聖公会から来られた宣教協働者である金頭昇司祭のお働きを期待するとともに、僕を含めた若手の働きに特に管理牧師である聖愛の古澤秀利司祭と城南の成岡宏晃司祭にも力をお借りして、新しいビジョンの構築と将来の教会のあり方を模索する状況に至りました。

殊のほかプレハブ時代の教会を知る現役の教役者が、磯

晴久主教さまと原田光雄司祭お二人だけとなったことは、今後の教会運営に少なからず影響を与えられると思われまじし、どちらの教会においても同じだと思いますが、後継の育成が喫緊の課題となりますことにつきましては、教区成立100周年を迎える大阪教区全体で捉えていくテーマであると思えます。



大阪教区関係教役者 5月逝去者記念聖餐式

5月10日 (水) 10:30~

* 説教者：アモス ^{キム}金 ^{ドウ}頭 ^{スウ}昇 司祭

15日 司祭 ^{よねむら}米村 ^{けんじ}健治 (1979)

24日 伝道師 エメイ ^{おぼた}小幡 ^{くの}久能 (1961)

29日 司祭 アーネスト・ゴードン・ハチンソン (1973英)

30日 宣教師 メーベル・C・バッグス (1984英)

* 教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分
から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかか
わらず、どうぞ自由にご参加ください。

【常置委員】報告 3/2 第5回(臨時)
協議事項
中日本宣教協働区における
協働と、伝道教区移行を選択
した場合の工程案について意
見交換し、今後の対応につい
て協議した。

が解除された。
5月16日(火)にヒューム
ユイワン執事の司祭説教試
験がパウロ教会で行われる
予定。一般の傍聴も認められ
る。

【常置委員】報告 3/9 第6回(定例)

I. 主教報告及び諸報告

【コロナ関連】

3月1日付で主教から大阪
教区指針が出され、3月13
日以降のマスク着用の原則
.....

* 特別財産運営委員会創設に
ついて協議した。
* 教区100周年記念礼拝に参加
予定の台湾訪問団への対応
について協議した。
* 3月22日(水)に予定して
いる台湾聖公会と常置委員
会とのズーム会議について
協議した。

II. 協議事項及び主教諮問

* 3月22日(水)に予定して
いる台湾聖公会と常置委員
会とのズーム会議について
協議した。
* 教区事務所勤務体制につい
て協議した。

ついで協議し、準備チーム
の発足を了承した。
* 主教から提示された人事案
を承認した。
* 教区神学生候補者の面接を
行い、教区神学生としてエ
スター・マクストンさん(大
阪城南キリスト教会信徒)
を適当と認めた。
* 教区事務所勤務体制につい
て協議した。

【常置委員】報告 3/15 第7回(臨時)
* 教区事務所勤務体制につい
て、当面の緊急対応を協議
した。

洗 礼

大阪聖パウロ教会
ソピア ^ソピア ^韓慧 ^ヘ羅
(3月19日)

逝 去 者

大阪聖三一教会
トマス ^{なかにし}中西 ^{かずお}一雄
(22年12月20日・85歳)
マリヤ ^{いまむら}今村 ^み美 ^ね禰 ^こ子
(3月1日・105歳)
大阪聖パウロ教会
クリストファー ^{わたなべ}渡壁 ^{みのり}穰
(2月11日・39歳)

聖ルシヤ教会
カテリーナ ^{なかつか}中塚 ^{かずよ}和代
(2月21日・73歳)

川口基督教会
パウロ ^{にしむら}西村 ^{まさお}正夫
(3月5日・89歳)

※ 敦賀基督教会の信徒。京都
教区の依頼により葬送式を
川口で執り行った。

大阪聖愛教会
ヨハネ ^{いせだ}伊勢田 ^{けん}健
(3月13日・91歳)

芦屋聖マルコ教会
マリヤ ^{こいけ}小池 ^{よさこ}洋子
(3月15日・85歳)

魂の平安をお祈りします

主教巡回予定 (5月)

7日 尼崎聖ステパノ教会
14日 高槻聖マリヤ教会
(堅信式)

21日 川口基督教会
28日 大阪城南キリスト教会
(堅信式)

お詫びと訂正
○2023年3月号2頁
(誤) 小野田富美子
(正) 小野田富美子

お詫びして訂正致します。

【大阪教区信徒の皆さんへの手紙】

大阪教区成立100周年を迎え、連続性のあるセミナーを、
当該年の2023年1年間を通して開催します。情報は教区報、
ホームページなどで随時更新いたしますのでお見逃しなく

第1回 【大阪教区信徒の皆さんへの手紙Ⅰ】
100年の歩み ~大阪教区の歴史を主に宣教の歩
みを振り返る
日時 4月23日(日)午後3~5時、川口基督教会
講師 山本眞司祭、西口忠氏、杉山修一司祭、他

第2回 【大阪教区信徒の皆さんへの手紙Ⅱ】
現在の状況~宣教の果りとして与えられた教会、
学校、病院、社会福祉施設などの今の現状と教会・
学校・社会福祉施設の関りなどを対談
日時 5月27日(土)午後2~4時
場所 大阪聖アンデレ教会
パネラー 長野泰信氏(博愛社理事長)、宮嶋眞司祭(桃
山学院チャプレン)、側垣一也氏(三光塾理事長)

第3回 【大阪教区信徒の皆さんへの手紙Ⅲ】
これからの歩み~大阪教区が大切にしていくこと
~ランバスコール、100周年を迎え再スタートす
る大阪教区のビジョン
日時 未定
講師 未定